

マルメ大学研修を終えて

やまねセンター歯科 高橋彬子

「スウェーデン研修」それは私にとってタイムマシンに乗って未来を見に行くような感覚でした。

日本とスウェーデンの大きな違いはそのシステムです。そして歯の価値。スウェーデン国民の歯の価値観は、最初からそうであったわけではなく、スウェーデンの歯科医療従事者達が作り上げてきたものです。

日本とスウェーデンは何がそんなにも違うのか？

スウェーデンの街角で現地の方と話す機会が多々ありました。その方々皆、日本はアジアの小さい島国なのにも関わらず、日本を知っていると云います。それだけ知名度も高い日本です。しかし日本人の口腔内が散々たる状況というのも知っているのか？と思うと日本で歯科医師として働いていることが少し恥ずかしくもなりました。

公立の歯科診療所の歯科医師とお話ししたとき、お子さんを将来歯科医師にしたいですか？と質問すると「もちろん！」という答えがすぐに返ってきました。その目の輝き、彼女自身が歯科医師というライセンスに誇りをもち、日々診療に従事しているということが伝わってきました。

スウェーデンでは「入れ歯科」をなくそうかという議論が数年前まであったそうです。移民の問題もあり、廃止にはならなかったそうですが、日本から考えるとまだまだ信じられない議論です。

それだけスウェーデンの歯科医療が発展した背景には、一貫した医療哲学があり、短絡的な結果でなく、長期的な視点、物事を熟考する PBL システム、その思考が日本の詰め込み式の教育とは大きくかけ離れていると実感しました。

今回、講義の最後に質問タイムを設けて頂きましたが、やはり私達側からでる質問は HOW TO 的なものが多く、講師陣の困惑した表情を何度も見ました。

熊谷先生がおっしゃっているように、どれだけシステムを模倣しても、そこに医療哲学がないと、真の患者利益にはつながりません。

実際にそれを目の当たりにし、遅いですがその意味がようやく理解できたように感じます。

自分の目で見える事、自分の足で出向くこと、自分の体で感じる事、それらは自

分自身を成長させます。1次情報を得ることの楽しさ、同じ志を持つ仲間との出会い、そのすべてが1週間とは思えない程とても充実した日々でした。

私の歯科医師人生の大きなターニングポイントとなったことに間違いありません。

これから日本の歯科医療がスウェーデンのように発展していけるかどうかは、日本の歯科医療従事者達の医療哲学にかかっていると思います。

そのことを忘れないように、時に立ち止まり、矢印を自分に向け、日々の診療にあたりたいと思います。

今回このような素晴らしい機会を与えてくださった熊谷先生をはじめ、すばらしい講義をしてくださったマルメ大学の講師陣、通訳の西先生、岩上さんに多大なる感謝を申し上げたいと思います。

どうもありがとうございました。

また必ず、今以上に成長した姿でスウェーデンに行きたいと思います。